

第661回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2024年3月度 ——

◇ 開催日

2024年3月18日（月）

◇ 議題

<ラジオ番組>

アサデス。ラジオ special

「隣で聞いた声～高倉健、最後の季節。～」

放送日時：1月2日（火）よる7時00分～8時30分

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第661回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024年3月18日(月) 15時30分～16時45分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	藤村	まこと
副委員長	田川	真司
委員	丸石	伸一
委員	上野	恵梨奈
委員	山根	久資
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
執行役員 総合編成局長	木附	ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田	高宏
役員待遇 報道情報局解説委員長 (取材・構成・ナレーション)	臼井	賢一郎
KBC M○○○V 制作部 番組プロデューサー	田原	博幸
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	吉岡	実
番組審議会事務局(視聴者・広報室)	松永	俊郎

4. 議題

- (1) ラジオ番組 アサデス。ラジオ special「隣で聞いた声～高倉健、最後の季節。～」
放送日時：1月2日（火）よる7時00分～8時30分
- (2) 3月・4月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 2月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) STL更新工事の影響によるエリア内の受信障害について報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 寡黙なイメージの高倉健さんの人となりや雰囲気を知ることができた。小田剛一さんが一生をかけて「高倉健」を演じたことに感動した。
- 私生活を明かさない高倉さんの闘病生活と素顔を描き、映画俳優としての矜持や信念を従来にはない角度から伝える独自性の高い番組だった。
- 高倉さんと小田貴月さんの関係を上手く客観的に表現していた。小田さんの話から、私たちが分からない本当の高倉さんの姿を垣間見ることができた。
- 高倉さんと小田さんの関係性は、まさに高倉さんが映画の中に求めた「人間の根幹や奥深さ、骨太さ」だった。「人が生きる、愛する、信頼する」「無償の愛、究極の愛」が詰まった内容だった。
- 事実婚や同性婚の人に生じる「相続」や「権利」についても考えさせられた。
- ここまで小田さんや大勢の関係者に語らせたKBCや臼井解説委員長の取材力は素晴らしいと感激した。
- 高倉さんの人間性に触れられる機会が地元のラジオ番組で提供されることに価値を感じた。
- 車やパソコンで数回に分けて聴くと大変聴きやすかった。興味があるリスナーが好きな時に聴くことができる配信系のサービスに適した作品だ。
- ラジオにマッチした内容だったが、映画化やテレビ放送も検討して欲しい。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 力作であり、盛りだくさんの内容だったので、「ながら」で聴く人には飽きられる気もした。
- じっくり聴かせる内容だったので1時間半は長く感じた。ラジオを1時間半集中して聴くのは大変だと感じた。
- 朗読、ナレーション、小田さんと語り手が多く誰が話しているのか途中で混乱した。
- 高倉さんの映画館でのあいさつやインタビュアーの声が小さく聴き取りにくかった。

- 一部のコメントに、やや唐突感を感じた。映像や文字情報がないラジオではもう少し理解を促す工夫が必要ではないかと感じる場面もあった。
- かなりターゲットが限定された内容だったので、放送後の反響や若年層の興味や関心、聴取率はどうだったのか気になった。
- 小田さんの生き方に共感しない人もいるのではないか。女性が犠牲になって男性を支えることを単に称賛しているように受け取られやしないか。どこか居心地の悪さを感じた。
などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- ラジオドキュメンタリーで90分はあまり例がない。当初は60分枠を想定していたが、構成するなかで想定を超える様々なテーマが取材できていたので、「むしろ90分必要だ」との思いに至った。
- リアルタイムで90分聴取するには長く、「ながら聴き」する内容ではないと思う。今回は放送後一週間タイムフリーで聴くことができるradikoで聴いたリスナーが多かったようだ。各々のタイミングで聴かれたのだらうと推測している。
- 「インタビュアーの声が小さかった」というご指摘について、テレビカメラでの取材だったので、マイクを向けた取材対象者に比べインタビュアーの声が小さくなってしまった。ラジオは音が勝負。バランスは今後の課題にしたい。
- 「一部のコメントに、やや唐突感を感じた」というご指摘について、場面も変わり、コメントでもフォローしたので（リスナーが）理解してくれるだろうと思っていた。少しテレビ的な編集だったと思う。テロップなどが使えないラジオならではの工夫が必要だった。
- 主なリスナー層は高倉さんを知る50～60代の男性。ただ、若年層でも日本を代表する俳優が「人間が生きる意味」や「人を愛するという事」をどう考えていたのか聴いていただければ、何か感じてもらえると思っていた。
- 小田さんが本を出版すると聞いてからロングインタビュー企画を持ちかけ了承を得ることができたが、テレビ化には関係者の考えを最大限尊重しなければならない。
- 高倉さんと「養女」の小田さんの関係性の全てを理解しているわけではないが、偉大な俳優に無償の愛で最後まで寄りそう小田さんの生き方に驚くとともに感動し制作にあたった。
などの説明をしました。